

断面 31 Im-Gr(s)

未熟土 その 2

母材料：花崗岩風化碎屑物

採取地：兵庫県西宮市 神戸事業区60林班い小班

海拔高：240 m

地 形：山腹下部凹形斜面

方 位：N 68°W

傾 斜：15°

林 相：アカマツ・クロマツ天然林（アカマツ・クロマツ—ヒサカキ—ツツジ類—ネザサ）

断面記載：

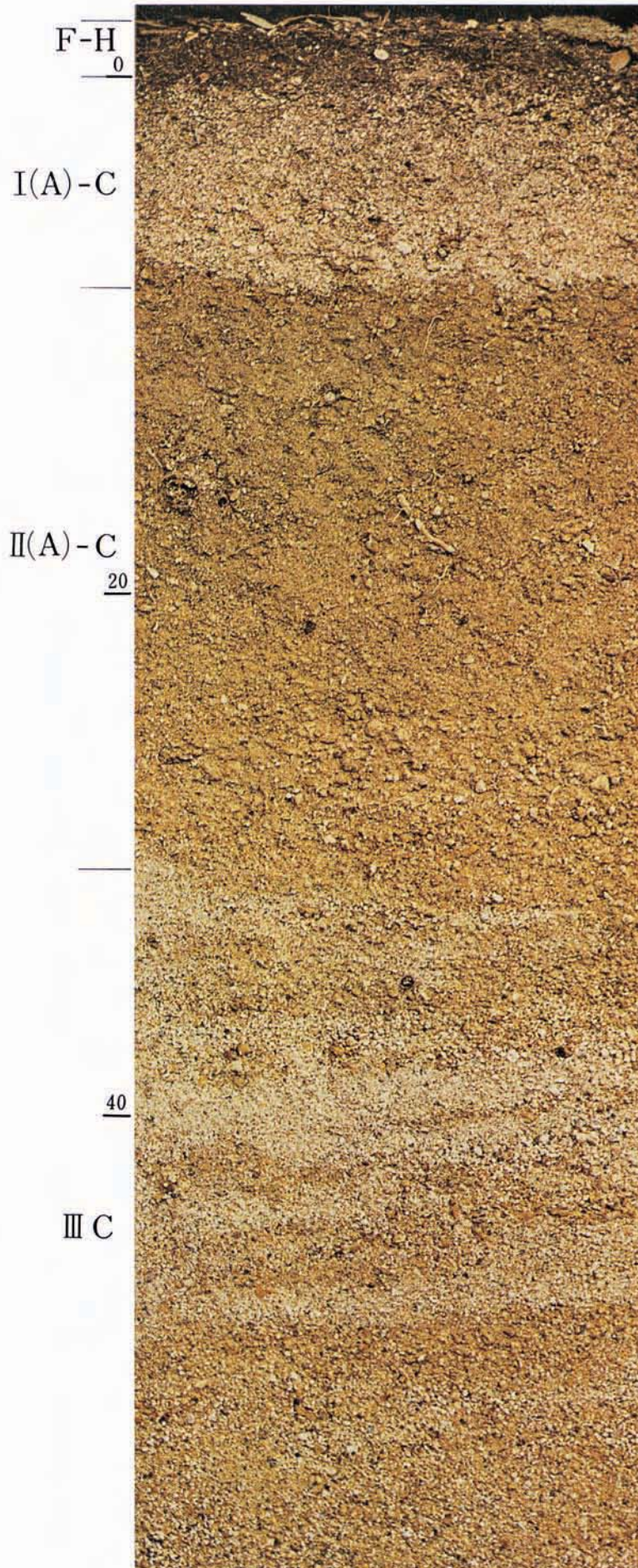
F-H 2 cm アカマツ・ササ等の乾いた腐葉からなるF層のなかに、粉状のHを認む。

I(A)-C 7cm にぶい黄褐色 (10 YR ^{4.5}/₃)、腐植に乏し、細礫富む、砂土、細粒状、軟、潤、細根きわめて多し、中根あり、次層との境界は明。

II(A)-C 20cm にぶい黄褐色 (10 YR ⁵/₄)、腐植に乏し、細礫に富む、砂土、上層より粘土分やや多し、軟、潤、中・細根あり、上部細根に富む、次層との境界は明、細砂にすこぶる富む層をレンズ状に挟む。

III C 30 cm + にぶい黄橙色 (10 YR ⁷/₄)、腐植に乏し、細礫すこぶる富む、砂土、軟、潤、腐根孔まれ。

採取年月日：1965年3月23日



せき悪林土壌の代表的なもののひとつで、深層風化した花崗岩丘陵地の山腹下部にしばしばみられる。ほとんど砂、礫からなる比較的新鮮な材料が堆積した未熟土で、水はけはきわめてよいが、有機物の供給が少ないため、腐植に乏しいことが多い。

この断面は層の配列状況、粒径組成、根系の分布、腐植による汚染程度から3層に区分され、すくなくとも2回以上、堆積作用の行なわれたことがうかがえる。各層中には周囲と粒径組成の異なる部分がレンズ状に認められる。

この図で色の濃くなっているところは、撮影時における、粒径組成にともなった乾燥の遅速の差に基づいた、含水量の違いで生じたものである。

この型の土壌は集水地形にあるので、せき悪林地帯としては比較的水分も豊富であり、土壌も堅密でないで、林床型はウラジロ、あるいはネザサ高稈型が多く、施肥等の若干の土壌改良のうえ、マツ類、ヒノキなどの造林が考えられる。



採取地の地形

層 位	C %	N %	C/N	pH (1:2.5)	置換酸度 Y ₁	C E C m.e	置 換 性		Ca/CEC	Mg/CEC
							Ca	Mg		
I (A)-C	0.6	0.03	20	4.70	12.3	4.78	1.48	0.25	31.0	5.23
III C	tr.	0.02	—	4.84	7.1	4.11	1.39	1.34	33.9	32.6

層 位	土壌中の細粒 (0.2~0.1mm) の鉱物 100 分比						土壌中の粘土鉱物			
	石	英	長	石	雲	母	角 閃 石	磁 鉄 鉱	加水ハロイサイト ・ハロイサイト	メタハロイ サ イ ト
I (A)-C		41.6		38.4		18.4		1.6	+	+++
III C		55.4		28.9		13.3	0.8	1.6	+	+++